

FAX+Lモードで新規EC需要を開拓 多回線対応とAPI、カスタマイズ性の高さを重視

インターネットを利用する電子商取引(EC)を補完する手段として、FAXがあらためて見直されている。ECサイト構築パッケージを開発・販売する住商情報システム株式会社と同パッケージに対して技術・販売支援を行うマイクロソフト株式会社は、ECサイトの機能として、NTTのLモードとFAXを組み合わせる機能を採用した。店舗が狭いなどの理由からパソコンを使えない小売業者や消費者を取り込むためにECサイトのFAX機能は重要だという。拡張性が高く、カスタマイズ開発も容易なFAXサーバーの導入によって誕生したECの新しい形を見ていこう。



住商情報システム株式会社
ネットワーク・マネジメント事業部
ネットソリューション部
ネットワーク第4課
ソリューション営業担当課長
岩沙 一彦氏



マイクロソフト株式会社
エンタープライズパートナー
第二営業本部
ソリューションパートナー営業部
部長
日詰 廣造氏

インターネットショップを素早く立ち上げることが出来るECサイト構築パッケージとして住商情報システムが開発・販売しているのがCommerceExpress。この製品は、業種・業態を問わず幅広いユーザー企業を獲得している。「BtoB、BtoCの販売型サイトだけでなく、BtoBに於ける購買型サイトでも稼働しており、購買者+店舗+サプライヤーを結び、BtoBtoC(B)の実績もある」と、住商情報システムのネットワーク・マネジメント事業部の岩沙一彦課長は話す。

高い人気を集めるCommerceExpressの特徴は適用範囲の広さ。物品・サービス販売に限定されるBtoCだけではなく、資材調達やMRQ(消耗品購買)などのBtoBにも応用できる。

このパッケージは、ECサイトの必須機能を提供するプラットフォームとしてマイク

ロソフトのCommerce Server 2000を採用。開発から販売まで同社と深い協業の中でビジネスを展開している。

PCを使えない店舗や消費者も少なくない Lモード+FAXでECにさらなる可能性

もうひとつCommerceExpressの特徴は、EC端末として多様な種類の端末を想定していることだろう。たとえば、企業ユースで活用されるWindows CE機をEC端末として想定するほか、NTTドコモのi-modeなどの携帯電話対応オプションも用意する。

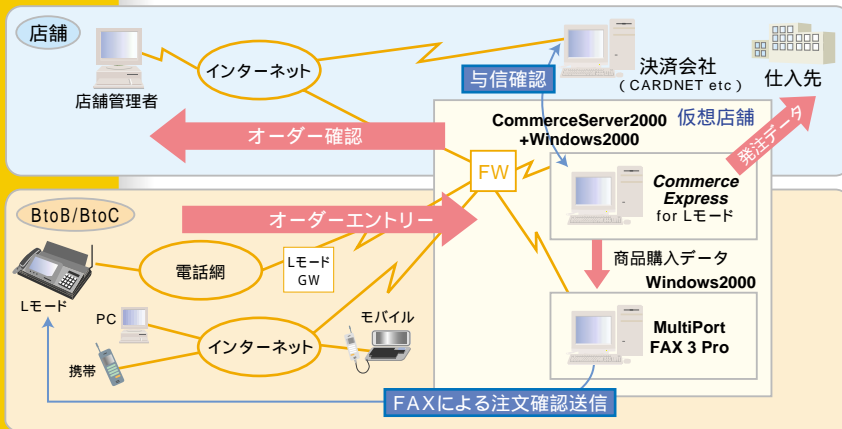
同製品はFAX送信機能も備える。つまり、同製品はFAXを重要なEC端末と位置付けている。

現状、企業の電子化の程度はまちまちで、見積書や納品書などを紙の書類として処理する必要がある企業が少なくない。「企業に多数普及しているFAXに直接書類が欲しいというユーザーのニーズが高かった」と、前出の岩沙氏は説明する。

FAXのニーズはそれだけではない。今後注目されるのは、NTTの固定電話を利用するインターネットサービスLモードとの組み合わせだ(図1)。

昨年6月のLモード発表にあたって、岩沙氏はこのサービスの将来性を直感し、CommerceExpressのLモードとFAXを組み合わせた機能の提供を決めた。というのは、「何らかの理由からパソコンを使えない小売業者や消費者も少なくない。LモードやFAXはECの隙間を埋めるために重要」と岩

図1 LモードとMultiPort FAX 3 ProのFAX機能を組み合わせる、住商情報システムのCommerceExpressの活用法



多回線FAXサーバーシステムMultiPort FAX 3 Proに関する詳細は.....

沙氏は考えるからだ。

小売店では、パソコンが物理的に置けなかったり、パソコンが扱えなかったりするユーザーも少なくない。LモードはまさにこういうユーザーがECに参加するきっかけとなるというわけだ。

LモードにはLメールという電子メール機能があるので、注文確認は電子メールでも可能。しかし、注文確認は紙のほうが見やすいし、安心というユーザーも少なくない。こういうユーザーに対しては、ECサイトからFAXで注文確認を通知するという機能がCommerceExpressの最新版には盛り込まれている。

API公開と高度な運用管理機能

複数回線対応でMultiPort FAX 3 Pro採用

CommerceExpressは、このようなFAX機能を実現するために、エスシー・コムテクスのMultiPort FAX 3 Proを採用している。「同製品を採用したのはFAXシステムの開発が容易なこと、そして多回線の送信処理が可能だったためです」と、前出の岩沙氏は説明する。

MultiPort FAX 3 Proは、豊富なAPIを公開している。そのため、業務に合わせたきめ細かなシステムを構築できる。MultiPort FAX 3 Proから標準機能として実装されたAutoSend機能(フォルダ監視による自動FAX送信機能)を利用することで、更に開発が容易となり、工数を短縮できる。



住商情報システム株式会社

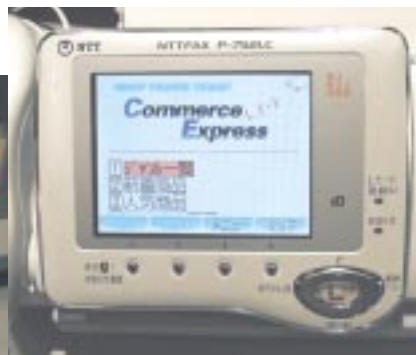
CommerceExpressは、インターネット上での電子商取引を強力にサポートするインターネットサイトスピード構築パッケージです。BtoB、BtoC電子商取引サイトを提供します。見積機能、ワークフロー機能、オークション機能等、電子商取引に必要な多彩な機能をサポートし、販売サイトだけでなく、調達サイトにも、ご利用いただけます。また、モバイル/FAX/Lモード対応により、購買者の環境を選ぶことなく、電子商取引を実現します。

また、MultiPort FAX 3 Proは通信エラー発生時に、自動的に再送したり、他FAX番号へ自動代替送信を行う等の通信エラーリカバリ機能を実装している。他にも送信結果ログの管理機能を標準装備するなど、安定性の高いFAXシステムの構築が可能だ。

MultiPort FAX 3 Proは、最大1サーバ32回線までサポートする。複数サーバを連携させることで更に多回線での運用が可能となる。過去、同社ではMultiPort FAXを利用したシステムで3サーバを連携させ72回線にて運用しているケースがある。MultiPort FAX 3 Proを利用すれば、各種業務にあわせた安定性の高い多回線FAXサーバシステムが簡単・短期間で構築可能である。

Lモード+FAXはECの裾野を広げ さまざまな活用法を生み出す

マイクロソフトエンタープライズパート



稼働中のMultiPort FAX 3 Proの
FAX機能とLモード

マイクロソフト株式会社

Commerce Serverは電子商取引システムを迅速に構築し、素早い市場参入、効果的なビジネスを実現します。

また、ビジネスの状況をシステムへ反映させるメカニズムと強力な分析機能を提供することで、ユーザーへの適切な情報提供やOne to One マーケティング、パートナー企業や顧客との関係強化を図ることが可能になります。

第二営業本部の日詰廣造部長は、「Empower people through great software anytime anyplace on any device.という弊社のビジョン及びNET戦略とも合致する」とCommerceExpressのLモードやFAXなどの様々なデバイスでのインターネット利用を高く評価する。特に、日本市場で企業や多くの家庭に普及するFAXというデバイスの活用は興味深いという。

一方、前出の岩沙氏によると、MultiPort FAX 3 ProとLモードとの組み合わせは既に採用例もあり、さまざまな応用が考えられるという。

「たとえば、小売店から商品の発注にFAXを利用しては例は少なくないはず。今後は社内調達用BtoBなどの利用が考えられる(岩沙氏)。その他パートやアルバイトの勤怠管理や情報提供サービスなど、パソコンが置けない狭い場所での活用はさまざまに広がる。

CommerceExpressの例は、インターネットとあわせて、多くの企業や家庭がもつFAXというデバイスを活用することで、ECの裾野がさらに広がることを示している。ECの普及や今後を考えるうえで、FAXは非常に興味深いポジションにあると言えるだろう。

【問い合わせ】



エスシー・コムテクス株式会社